
駅の中

之之之之之

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

駅の中

【コード】

N6402D

【作者名】

之之之之

【あらすじ】

何かと引っしよに居るといふ暖かさや心の余裕、そして誰も居ないという寂しさを駅で表現。

(前書き)

読者の皆様へ。

初めての投稿ですので至らな

い所もありますが、どうか見てやって下さい。

私は、いつも一人ぼっち。

雪降る駅の中、私の心を見透かす様に、風が通り過ぎる。
電車が通り過ぎる。

人も通り過ぎる。

人々は誰もこつちを向いてくれない。
こつちを向いてくれるのは風と雪だけ。

また電車が通り過ぎる。

風を切つて走り抜ける。

風は裂けてこちらへと逃げてくる。

私はそつと抱き抱えるがスウーとどこかへ逃げて行く。

人々は風を見て見ぬ降りして歩いている。

また電車が通り過ぎる。雪をも押し退け真つ直ぐに走る。

雪が、逃げる風に乗ってゆらゆらと滑つてくる。

私は雪達を両手でゆっくりと掬い上げるがじわつと溶けて消えてしまった。

人々は雪を払い退けながら歩き続ける。

また電車が通り過ぎる。人々は歩き続けようやく立ち止まった。また電車が通り過ぎる。皆は時計を見ている。夜空の下冷たくなった指先を自らの息で温めている。雪が少なくなってくる。また電車が通り過ぎる。風も強く流れていたのに今はゆっくりと流れている。

今度は電車が駅に止まる。

今は風も雪も自由に楽しそうに動いている。

人々は、電車の中へと消えて行く。

駅より明るい電車の中へ。駅よりも暖かい電車の中へ。皆がいる電車の中へ。出発の合図。ドアが閉まり、ゆっくりと電車が出発する。そして徐々に速度を上げ、電車は走り出す。人々を次の駅まで連れて行くために、風と雪を連れていった。私は、いつも一人ぼっ

ち。心の中に何か虚しい何か生まれた。駅には私しか居ないから。

(後書き)

これからも之々之々之々をよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6402d/>

駅の中

2010年11月2日03時42分発行